

あかね

明石市立明石商業高等学校図書館発行



読書の
すすめ

夢をかなえるゾウ
水野敬也 著

校長 楠田 俊夫

「枕元にへんなのがいる。象のように長い鼻。鼻の付け根からのぞく二本の白い牙。そしてぼつてりとした大きな腹を四本ある腕の一つでさすっていた。」

ある朝、目が覚めると「僕」の隣に、象のような自称「神さまのガネーシャ」がいた。「僕」とガネーシャは、「僕」の夢を叶えるという契約書をかかわす。半信半疑の気持ちの「僕」に、「靴を磨け」、「コンビニでおつりを募金する」、「食事を腹八分におさえる」など、どうでも良いような課題が次々と与えられる。ガネーシャの課題を通して、次第に自分が成長する楽しさや感謝の気持ちで芽生えていく「僕」とガネーシャの笑い

感動の話です。

ガネーシャの最後の言葉「成功だけが人生やないし、理想の自分あきらめるのも人生やない。バギようさん笑うて、バギみたい泣いて、死ぬほど幸福な日も、笑えるくらい不幸な日も、涙が出るような美しい景色も、全部全部、自分らが味わえるために、この世界を創ったんやからな」は、心に残ります。

ドラマ化された人気作品で、原作でも「夢を叶えるゾウ2・3」と続編が2冊発行されています。人の成功をうらやみ、自分に自信が持てない「僕」が、ゆったり変わっていく様子に、私たちも「自分も夢を叶えられそうだ」、「人生は楽しいな」と、前向きな気持ちになれる作品です。

「私の読書スタイル」

教頭 橋本浩二

今年（平成三一年）に入って「豆の上に眠る」（湊かなえ著）を読みました。後味の悪い苦しい

内容で、個人的にはお薦めしないうえ、基本的には湊かなえさんは大好きで明商の某英語の先生のお母様が個人的に湊かなえさんとお付き合いがあり、私の名前入りで色紙にサインして頂いたのを大切に持っています。

私は本が大好きで寝る前の最低でも約三〇分は布団の中で枕元に電気スタンドを置いて毎晩読みます。

私の本の読み方は2、3冊を同時に読み進めることが多く、現在はこの夏に「松本清張小説セレクション」全三六巻を古本で一気買いして松本清張の小説を読みながら話題の本を読むという読書生活です。今は「かがみの孤城」（辻村深月著）を読みながら松本清張をつまむというパターンで、一日のすべてが終わって就寝前のわずかな時間が至福のひとつときとなっています。

まとまりのないお話しになりましたが、読書の楽しさが少しでも伝

わればと思います。

読書のすすめ

事務局長 山脇 健次

読書もゲームと同じで暇つぶしのひとつだと思いますが、本を読むと単におもしろいだけでなく、勇気づけられることや、自分の進むべき道を示してくれることがありまして。いい本と出会うといい人生が送れるかもわかりません。

この原稿を書くために明商図書館でたくさん本を借りました。ほとんどの本は塚本先生が薦めてくれたもので、その中でも特におもしろかったものを紹介します。どの本も読み始めるとよい映画と同じで引き込まれます。内容は、人のやさしさや本当の強さが描かれていて、何度も涙するものもあります。前向きに生きようを思えるものです。

住野 よる 『君の隣を食べたい』
中山 七里 『秋山善

吉工務店

池井戸 潤 『アキラとあきら』

遠田 潤子 『遠雷』

菅田 哲也 『プラー

ジュ』

伊坂 幸太郎 『AX』

「読書のすすめ」

三年二組 担任

今井 康之

紹介したい本が多すぎて書ききれません。ただし皆さんに伝えたいことがあります。それはとにかく自分が興味のある本を読むということです。スポーツ、語学、哲学、小説、ビジネス書、実用書など何でもいいのでまずは手に取って読むことです。今の時代は便利で本屋とカフェが併設され、本をそのままカフェに持って行き、読むことができます。こういった施設があるということ、世の中の流れはインターネット情報化とは別に紙媒体である本の需要が一定数あるとい

うことを表していると思います。上記で読書はあたかも良いことのように書きましたが、ここでは読書の注意点を書きたいと思います。本を読むことで著者の考えや読めば読むだけ多くの知識を得られると思います。最初は一冊読むのに何日もかかるかもしれませんが、読み進めることが大切なのです。まずは自分が興味のある本を読みましょう。ここでの注意点は知識を得るだけでは成長はしないということです。得た知識を基に行動し、自分の経験とすること大切です。最初のきっかけはなんでも構いません。好きな芸能人やスポーツ選手が書いている、読んでいたタイトルや表紙を見て気になったら買ってみるのも経験です。本から得る知識を上手に活用して、行動して、もっと人生を豊かにして行きましょう。

「砂漠」

井坂幸太郎 著

一年 生徒指導担当

三浦 仁大

「その気になればね、砂漠に雪を降らすことだって、余裕でできるんですよ」

このセリフは、この小説で最も印象に残っている言葉です。

「砂漠」と「雪」というのは、本来決して交わらないものです。砂漠に雪は降りませんよね。砂漠に雪が降ったら、それはすなわち、ありえないことが起こったわけで、それを人は「奇跡」と呼ぶと思います。

そして、「砂漠に雪が降ることもある」ではなく、「砂漠に雪を降らす」という言葉が表しているのは、「奇跡が起こるのを待つ」という受動的なアプローチではなく、「自分たちの手で奇跡を起こそう」というような、積極的なアプローチだろうと思います。社会にできれば、決めら

れたカリキュラムをこなすだけでなく、自分たちで行動し、様々な社会問題を解決していかねければなりません。しかし、様々な問題には、ジャンルマを抱えているものが多いです。その結果、正確さを重んじるあまり「なにも行動しない」人がほとんどです。この言葉には、そんな大勢の人々に「なぜ行動できるのにしないか」と問いかけているのではないのでしょうか。また、社会にできれば、辛いことも苦しいこともありま。その時に諦めるのではなく、逃げるのではなく、強く願って、行動すれば奇跡は起こせるというメッセージがこもっているのではないのでしょうか。

素直にそう思わせてくれる小説です。みなさん、是非読んでみてください。



10代にしておきたい17のこと

本田 健 著

二年五組 担任

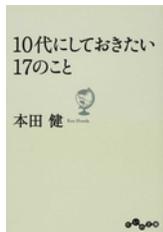
高尾 和磨

“ 人生の原点は10代にあります！”

自己啓発のような本はあまり読まないのですが、タイトルと帯の言葉に惹かれ「自分は何個くらいできたのかな」と興味本位で読んでみることにしました。結果、17のうち半分はできたことで残りの半分は驚く内容でした。驚くといっても、なるほど！といった驚きではありません。こういった類の本ではよくきれいなことを並べている印象があるのですが、この本は「現実とはこういうものだぞ」と著者から10代の若者に対してメッセージを突きつけるような内容だったので驚きました。また現実を突きつけるだけでなく「何も考えない無駄な時間を過ごすなよ」と檄を飛ばしてくれているように

も思えました。読み終えて感じたことは、高校生で感じたことは、高校生の頃にこの本と出合っていたけれどもっと積極的に行動できたのかも知れない、20代だけでも今からでも遅くないはず、という前向きな感情でした。

「学生時代にもっとこうしていればよかったな：」「あの時あれをしておけば：」これは大人になってから思うことです。皆さんが10代として生きているのは残り3年ほど。この本に触れることで、自分には何ができるだろうか、どうすべきだろうか、と考えるきっかけになるのではないかと思います。



「嫌われる勇気」 自己啓発の源流「アドラー」の教え
岸見 一郎・古賀史健 著
養護教諭 諸菱 志穂

普段あまり本を読まないのですが、「嫌われる勇気」というタイトルに興味を惹かれて読んだ一冊です。この本は青年と哲学者の対話形式によってアドラー心理学について書かれています。

哲学者の考えに疑問を持たれた青年が彼の元を訪ねるところから話が始まります。疑問をぶつける青年に対して哲人は冷静にアドラーの思想を説いていきますが、「人は怒りを捏造する」「あなたは不幸は、あなた自身が「選んだ」もの」「劣等感の主観的な思い込み」など、どれも青年の考えをひっくり返すようなことばかりで、哲人に怒りをぶつける場面もあります。しかし、話が進むにつれて哲

人の言うアドラーの考えに心動かされた青年が気づいたことは…読み終えるまでに時間はかかりましたが、人生を幸せにするため、たくさんのお気づきがありました。最後には「世界とは、ほかの誰かを変えてくれるものではなく、ただ「わたし」によってしか変わりにえない」という哲人の言葉があります。世界をどう見るか、自分の人生をどう捉えるかは、自分次第でなんとでも変えられるのです。

これから先、自分の人生を幸せにするための気づきがきつとあると思うので、ぜひ一度読んでみてください。

頭のいい説明「すぐできる」コツ
鶴野充茂 著
(三笠書房) 担任
二年二組 前田 咲織

自分の考えをうまく伝えられず、もどかしい思いをした経験はあり

ませんか。その悩み、コミュニケーションのエキスパートに解決してもらいましょう！本書では、数あるコミュニケーション技術の中でも、「すぐできる」ものが紹介されています。しかも二百ページほどですが読みます。ビジネス本ですが、高校生の皆さんにもぜひ読んでもらいたいです。紹介します。

まず、どうして「頭のいい説明」が必要なのでしょう。それは現在、多くの企業で「説明能力」「仕事の能力」として評価されることが多いからです。同じ程度の能力でも、説明が上手な人の方が、周りから信頼されるのです！恐るべし、説明の力。さて、本書では五十余りの説明のコツが紹介されていますが、一口にコツといっても、話す順番から、相手の目を見るタイミングまで様々です。すべてを使いこなすのは難しそうですが、多くのコツに共通するのは、「相手の気持ちを考える」ということです。これなら、すぐに

できそうですよ。高校生の皆さんが「頭のいい説明」を求められるのはいいでしょう。おそらく、進学・就職のときです。限られた時間でうまく自分をアピールしたい、相手に印象を残したい…そんなとき、この本がきつとヒントをくれるでしょう。



話に「オチ」を

つける技術

一年三組 担任
高島 孝磨

「だから？」「それで？」と友達や家族、先輩や先生に言われたことはありませんか。あなたのその話「オチ」はついていきますか？「オチ」をつけるために必要なのは笑える内容を集めることではありません。話し方を変えればいいのです。面白いと感じたこと、悲しいと感じたこと、心が動いた出来事を周りの人と共有したい！と思っても、どうも反応が悪く感じることのある人だけでなく、自分は「オチ」をつけて話せている！自分は話す能力が高いんだ！と思ってる人にも是非読んでもらいたい本です。

す。もちろん、相手の話を聞くことも大切です。そのうえで、話す能力も身につけて欲しいと思います。

「叙述トリック短編集」

似鳥 鶏著

教務部

藤本 純一

この作品は図書館に配架されています。興味がある人は図書館に来て借りてみてください。「叙述トリック」とは、小説の文章そのものの書き方で読者を騙すトリックです。例えば、登場人物の名前や話し方で性別や年齢を読者に誤認させたり、物語の順序を入れ替えて記述することで時系列を誤認させたりするなどの方法などがあります。そのため、注意深く読み進めたいと最後まで真相に気付かず、最後の最後で作者に騙されたことがわかるため、読者からアンフェアだと言われてしまします。

らずに書くために『叙述トリック短編集』というタイトルで叙述トリックが使われていることを読者に伝えていきます。叙述トリックが使われていることが重大なネタバレになっていきますが、これは作者からの挑戦状になっています。叙述トリックを見抜くために注意深く読んでもよし、なんとなく読んで叙述トリックに引っかかってもよし、どちらの読み方でも楽しむことのできる短編集になっています。叙述トリックを味わうために、一度読んで終わりでではなく、真相を知ったうえで二度、三度、読み返して一度目とは違った視点で物語を楽しんでみてください。



図書館より

六十四回生の皆さん、卒業おめでとうございませう。進学する人も社会人になる人も本を読むことは、気分転換にもなり、新たな発見があり、新生活の何かの助けになると思います。活字から想像力の翼を広げてみてください。

編集後記

「あかね」第一一三号をお届けします。「読書のすすめ」には、今年度、新しく着任されました先生方を中心に執筆をお願いに上がりましたところ、「快諾いただきました誠にありがとうございます。生徒の皆さまの新たな本と出会いや、新たな世界を広げることのきっかけになれるように願っています。今年も、直木賞・芥川賞などの受賞作品やノミネート作品・本屋大賞などを中心に購入しましたが、来年度も多くの

リクエストを寄せてもらえたらと思っております。そして図書館を利用してください。また、今年も資格・検定の取得に関する参考書や英検・漢検・情報処理・日商簿記などの問題集も入っていますので、活用してください。進路に関する小論文の書き方や時事問題の説明書と問題文になりそうな本、SPIの問題や面接対策の本も集めてみました。二年生の方は、就職や進学の準備を早めに始めてください。最近、ひょうご仕事と生活センターで発行している、「WLBな会社ガイド」(兵庫版)を送っていた皆さま。ワーク・ライフ・バランスに興味のある人は、声をかけてください。実際にある企業で、具体的にどんな取り組みが行われているか、などが書いてあります。ホームページに、図書の新着案内を掲載していますので、チェックしてください。(図書館長)

